

核兵器廃絶をめざす 富山医師・医学者の会 会報

2003. 8. 31
核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会
富山市桜橋通り6-13
電話 076-442-8000

平和への思いを綴る

広島で被爆した父の思い出

世話人・金井英子

父は歩兵二等兵として、広島連隊にいるときに被爆した。

私が小学生の頃、父は時々広島の話をした。乏しい食料の代わりに夏蜜柑が風呂敷包み一杯配給され、とても酸っぱかったが、仕方なしに食べたこと。原爆が投下された後は、市内に入り、毎日屍を焼いたこと。焼け跡で、白骨が風に吹かれて、カラカラ音をたてていたのをとても不思議に思ったこと。富山へ帰ってから原因不明の発熱で、1ヶ月位寝込んで辛かったこと。

私が、小学校6年の頃から、父は頭痛に悩まされ始めた。病院で検査を受けたが異常がないため、ノイローゼだろうと言われて大変怒っていた。

私が中学1年の夏、41歳の父は脳血栓を起こして大学病院に入院した。左眼の視力を失い、左半身麻痺となった。当初、多発性硬化症が疑われたため、右眼も失明するかもしれないと言われた。しかし幸い症状はそれ以上は進まず、6カ月後に退院した。左手は不自由だったが歩行は日常生活に支障がない程度に可能となっており、元の職場に復帰することができた。ただ、父の性格は以前のように快活ではなくなり、いつも何かをイライラしていた。

私はちょうどその頃、反抗期だった。あの時どうして父にもっと優しい言葉をかけてあげられなかつたのだろうかと悔やまれる。けれども、負けず嫌いの父は中央大学法学部の通信教育を受け始めた。膨大な量の教科書が送られてきて、家にいる時の父は、いつも机に向かって、びっ

しり赤線の引かれた教科書を眺めていた。何年もかかって父は卒業した。その時も、私は素直に「おめでとう」と言ってあげることができなかった。

脳血栓の後10年間は元気だったが、それ以後は、血小板増多症、貧血、さらには、白血球増多症となった。最終的には骨髓は疲弊し、骨髓線維症で亡くなった。62歳であった。

父よりも遥かに悲惨な生涯を送って亡くなられた被爆者は数えきれない位いらっしやるだろう。父は平凡な家庭ながらも2人の娘に恵まれ、仕事も定年まで勤めた。しかし、被爆することがなければ、もっといい仕事をして天寿を全うすることができたろうと思うと、悔し涙が流れる。

父と同じ苦しみを絶対に我が子や孫に味わわせる訳にはゆかない。この世で二度と核兵器が使われることがあってはならない。私たちは、二度と戦争を起こしてはいけない。この一文を書きながら、改めて私は強くそう思う。



市内各所に臨時の火葬場が作られ、つぎつぎと運ばれてくる死体が茶毘(だび)に付された
(宮武甫氏撮影 朝日新聞社提供)

横浜大空襲の思い出

世話人代表・片山 喬

敗戦の年（昭和20年）の8月に富山市も米軍の空爆で焼失したとのことですが、私一家もその数ヶ月前の同年5月29日に横浜市で空襲に遭遇したので、その思い出を綴ってみます。

その年私は旧制中学（横浜一中、通称神中）の三年生でした。私が中学へ入学した年（昭和18年）には軍事色は強かったのですが、それでも一応授業は普通に行われていました。しかし「教錬・修練・修身」といった授業が多かったと記憶しています。二年生になると都市部での防火用水の壕掘りや農村への手伝いで麦刈りや稲刈り芋掘りなどをやる事が多く、学校へ通う日時は少なくなり、三年生になると同級生全てが工場へ動員となりました。（上級生は全て動員を行っていました）私のクラスは他の2クラスと共に、その頃綱島にあった安立電気という工場へ動員となりました。ここは私鉄東横線（現東京急行）の綱島温泉駅からほど近いところです。私は東急線の高島町駅から綱島温泉駅まで電車で通っていました。毎朝の始業前には「学徒動員の歌」と「勝利の日まで」を歌い、無線機の組み立て作業をやっていました。

昭和20年の5月29日は晴れていました。朝から空襲警報で我々全学生は工場の裏山に掘られた防空壕に入りました。私はあまり中へは入らず入り口で空を見上げてみると、B29がたくさん飛来し、焼夷弾が落ちてくるのがよく見えます。その後、横浜の町の方から黒い煙が上がっていました。昼頃になって空襲も一段落し、その後帰ることになりましたが、東急線は動いていないので友達らと徒歩で綱島から横浜に向けて歩き始めました。始めは結構話をしたりし乍ら、おもしろいハイキングのような調子でしたが、横浜へ近づくにつれて言葉も少なくなりました。白楽、六角橋を過ぎると前方はもう焼け野原でした。熱い中を突っ切って歩きました。途中道端で亡くなっておられる方を何人も見ましたが、緊張のためでしょうか大きな動揺もなく走るよう

に進みました。青木橋の所まで着くと焼失していない病院で運び出した医療器具を移動させたりしているのをぼんやり見ていると、友達の知り合いが来て私どもの家の方は全て焼失した事を知りました。覚悟はしていたものの愕然とし、ここで始めて両親の安否が心配になりました。自宅のあったところに辿り着くと、家屋は全て焼失し両親はいませんでした。近所の人に無事と教えてもらいました。

父が開業医で医師会の関係で国防衛生隊という組織に加わっていたので、警察署で診察しているとのこと。戸部警察署に行き父と会いました。父は丁度顔見知りの薬局の店主の治療（火傷のため）をしていましたが、本当にひどい火傷でショックを受けました。食事などはどうしたのか、全く覚えていませんが炊き出しもあったのでしょう。その夜はその警察署の柔道場の畳の上で寝ました。この後父は診療で動けないし、母を訪ねて再会しましたが、その後何とか知り合いの人の家を泊まり歩き8月15日の終戦の日を迎える事になるのですが、大変みじめな思いをしました。

私はそれまで戦争をそんなに身近に感じていなかったのですが、この経験をして戦争を憎むようになりました。敗戦で燈火管制が無くなりゲートルをまかずに外出出来るようになったことを喜びました。この戦争で亡くなられた方のご冥福を心から祈ります。

現在もつづく核戦争の危機、核兵器を世界から失くすよう力を尽くしましょう。



焼夷弾で爆撃を行なうB29

—ルメイ・最後の空襲（桂書房）—

昭和20年の夏の思い出

世話人副代表・高野 昇治

昭和20年の夏は、私が20才、金沢医科大学（現金沢大学医学部）1年のときでありました。当時、友人の親戚である、金沢市内のお宅の二階に下宿しておりました。

空襲警報下の夜の空をB29の爆音が、ウオンウオンと通り過ぎていきまいた。服を身につけ、ゲートルを巻いて、空襲警報の解除を待ちながら、畳んだ布団に頭を乗せて寝ておりました。

7月19日、福井が爆撃を受けました。私の家族は福井に住んでおりましたので、これは大変だ、家は、家族はどうなっただろうかと、早速帰らなくてはならぬと考え、大学の事務のほうへ行きました。学割の他に乗車券を発行してもらう為の証明書もいただき、その他必要なものを用意致しまして、現在の金沢駅の、その前の、其のまた前の情緒ある建物であった旧金沢駅から、単線の蒸気機関車で走る北陸線を、大体2時間かけて福井へ着いたと思っております。

福井の町が見えてまいりますと一面が焼け野原で、これと言ってめほしいものは目に入りません。乗り合わせた人達と興奮しながら話をしたり窓の外を見たりしているうちに福井駅に着きました。

さて降りようと、持って来たリュックサックを……と、ありません。

わ、大変だ、慌てて外へ出てプラットホームを歩きつ戻りつして探しますが持っている人は見つかりません。また車内へ戻ります。パニック状となって探しますが見つかりません。何しろ爆撃後のどうなっているか分からぬ状況の所へ行くわけですから、毛布や食料など、役に立ちそうなものは何でも一杯詰めたリュックサックです。それが無くなってもしもの場合、焼け野が原でどうすれば良いのか。

手当たり次第、扉を開けたり、上を見たり下を見たりして探しておりましたら、なんと有りました。私のリュックがありました。便所の中の奥の方でした。発車ベルの鳴っているプラットホームに下りて、本当にほっとしました。

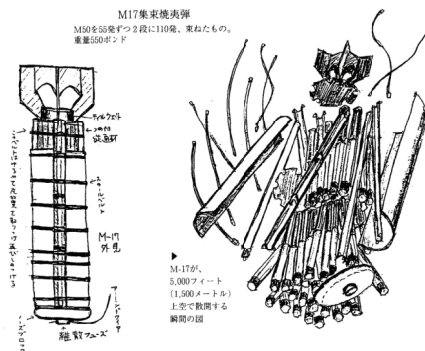
街は何もかもが焼けておりました。黒焦げの死体があちこちに見えます。なんとも言えぬ気持ちです。この仇は必ず討つぞ、と心に叫びながら足を速めました。幸いにも郊外にあった私の家は焼け残っており、伯父、叔母一家、大阪から疎開していた従姉妹たち、母、弟達が元気な顔を見せてくれました。ただ、祖母は、焼け死んだと聞かされました。脳血管障害の不自由な体で、井戸の近くまで体を運んでいたそうです。熱かったでしょうね。胸が痛みます。

富山大空襲は8月2日未明です。

その後の6日と9日の原子爆弾の事はよく覚えています。が、15日の事は、何故か判然としておりません。夜電気の遮光をしなくても良くなったこと、とは言え幕を外すのにためらいがあったこと、どこの飛行機か判らない爆音に、もう心配しなくても良いのだと心に言い聞かせて、ほっとするような気持ちがあったことなど、断片的です。

仇討ちのことは、忘れて居りません。が、今は実行しようとも思っておりません。老子に「怨みに報ゆるに徳を以てす」という言葉がありますが、（敗戦後、蒋介石がこの言葉を日本に対し使ったと聞いております）どこかで輪廻を断ち切らねば、地球の平和は遠のくばかりだと思っております。核兵器廃絶、世界平和確立の為の運動にも、この視点が大事でしょう。

夏の思い出は、苦しく、悲しく、憤らしいものです。そうして、夏は鎮魂の季節でもあります。



富山大空襲で使われたM17 取束焼夷弾
—ルメイ・最後の空襲（桂書房）—

若い人達の熱気にあふれた 原水爆禁止2003年世界大会・長崎に参加して

世話人副代表・黒部 信也

毎年8月の原爆被爆の日に、広島・長崎で交互に行われる原水爆禁止世界大会は、世界の核兵器の廃絶を実現し、被爆者を救援する為、大きな貢献を果たして来ましたが、今年はアメリカ・イギリスによるイラク攻撃に反対して世界中で盛り上がった反戦平和運動と呼応して、一層熱気の溢れる大会でした。

富山からは、世界大会の前に開かれる国際会議に例年必ず参加される1名の方の他、今年の長崎の大会には27名が参加しました。

今回私は富山県代表団の団長としての重責を担っての参加になりましたが、夜行の長旅にも拘わらず一同元気に長崎に着き、開会総会の席に着くことが出来て医師としてほっとすると共に、会場に溢れる7千人を超す参加者の熱気に包まれてしまいました。

しかも非常に印象的だったのは、若い人たちが圧倒的に多いことで、イラク戦争に反対する若者達の様々な行動の反映が感じられ、胸の熱くなる思いをさせられました。

幸いにも私達の席が最前列だったので、来賓挨拶された被爆の生き証人の山口仙二さん、平和行進で富山から広島まで通し行進された竹田照彦さん、非核の国ニュージーランドを尋ねた時家族ぐるみで迎えてくださったオブライエンさん、力強く感動的に主催者報告をされた安斉育郎さん（核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会で講演して頂いたことのある立命館大学教授）などに身近に接することが出来たのは嬉しいことでした。

そして世界中の代表のどうしても核兵器を無くそうという熱意のこもった発言には胸の打たれる思いをしました。また会場で広島市の秋葉市長のアメリカの核戦略を非難し、日本政府に非核のための具体的な行動を求めた、非常に格調の高い平和宣言を教えられて感動しました。

大会2日目は各種分科会に分かれて核兵器を無くし平和を実現する課題が、色々な角度から論議されましたが、私は戦前からの軍港で、戦後アメリカの極東での



原水爆禁止2003年世界大会長崎の開会総会
(7日、長崎市民会館体育館)

最重要海軍基地にされ、且今もその機能が強化されつつある佐世保を視察する「動く分科会」に参加しました。

そして取り上げられた天然の良港と海岸を、本来の日本人の物として取り戻す為に、日本人全体が日米安保条約を破棄することを決意しなければならないことを思わされました。

大会3日目の閉会集会の前には、長崎市主催の平和式典の準備の行われている平和公園の原爆慰霊碑で亡くなられた方々の冥福を祈り、その犠牲を無にしないことを心に誓いました。そして富山から持参した折鶴を日本中から寄せられたものに合わせて捧げました。

閉会集会は第1日目より一層熱気に溢れたものになり、セミパラチンスクの核実験の為手足が極度に小さく生まれたカザフスタンのレナータさん、アメリカ軍によって地獄にされたイラクを体験して来たアメリカの女性や、同じくフィリピンの青年の反戦平和の切々たる訴えに胸を打たれました。

そして今回の大会では、「2年後に迫った被爆60周年を、核兵器も戦争も無い平和な世界への転機にする為、各国政府に協定を結ばせましょう！」という新しい署名運動を世界中で始めることを決めました。

そこで私としては、今回の世界大会の感動を胸に富山県からの参加者の皆さんと一緒に、その新しい署名運動に積極的に取り組みたいと思っている次第です。

今年の夏、反核を想う

世話人・太田 真治

今年の本格的な夏は終戦記念日を過ぎてやって来た。そんな残暑の休日、知人のメールのことが気になっていた。彼が言う。

「今度のイラク戦争、イラクが核武装していたらアメリカも攻撃できなかったんじゃないかな。だから北朝鮮が核武装を進めることは自国の安全保障政策として至極当然なんだ。今のアメリカの先制攻撃戦略に対抗するには核武装しかない」

そんな論理に妙に納得してしまいそうな我が国の雰囲気怖くなった。しかしその核抑止体制が崩れた時に地球環境が最悪の事態を招くことを、当人は果たして考えているのだろうか。その核爆弾の

下に自分がいるかもしれないと、考えたことはないのだろうか。

今の日本がやるべきことは、核拡散防止条約を真に機能させることである。それには非核保有国の安全保障がなされることである。まず核保有国が非核保有国に対し核兵器の使用と威嚇をしないこと。そして核保有国自らがその核兵器削減に着手することである。

まずはアメリカが率先して核政策を転換するしかない。それを進言できるのは唯一の被爆体験国である日本において他にない。

以上の如く再確認した暑い夏の午後であった。

核兵器廃絶をめざす
富山医師医学者の会

第8回総会を開催

世話人代表に片山喬氏を再選

副代表には、高野昇治氏と黒部信也氏



片山喬世話人代表
(元富山医科薬科大学
付属病院・院長)



左より金井世話人、片山世話人代表、高野世話人副代表、瀧世話人

さる8月6日、核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会の第8回総会がフコクビルにおいて行われました。片山世話人代表が議長を務め、高野昇治副代表が活動報告・方針ならびに会計報告を、役員改選の提案を瀧邦彦世話人が行い、それぞれ承認されました。

続いて行われた第24回世話人会では、世話人代表に片山喬氏、副代表に高野昇治氏、黒部信也氏が推薦され、再選されました。その後、弁護士の青島明生氏を迎えて「国民保護法」をテーマに話を聞き、意見交換を行いました。

2001、2002年度 活動報告

(1) 核兵器廃絶への世論形成に努める事業

◆渡辺治講演会

01年7月1日、一橋大学教授の渡辺治氏を講師に招き、市民公開講演会を行った。テーマは「21世紀の日本－憲法問題と平和・核兵器廃絶への展望」。



渡辺氏は、憲法改正や靖国神社公式参拝を押し進めようとする小泉内閣の危険性や、グローバル化の名の下で日本が世界とアジアの国々を脅かしてきていることなどを迫力ある語りで訴えた。

◆9・11同時多発テロ

01年9月11日に起ったニューヨークの同時多発テロは世界を震撼させ、以後ブッシュ政権に軍事戦略において単独主義を鮮明にするきっかけとなった。当会は、10月2日と18日に、「テロにも戦争にもノーを！」「核兵器使用に発展しかねない報復戦争をたたちに中止し、国連中心の解決を」という内容の声明を、アメリカと日本の政府にそれぞれ送った。

◆アメリカの核戦略見直し －核の先制使用

02年1月9日、米ブッシュ政権の核戦略見直し計画が発表された。そのポイントの一つは、核と通常戦力の区別をなくし、新たな小型核兵器の開発とその使用。二つめは、抑止に失敗した場合、先制攻撃や核の先制使用を否定しないという方針である。さらに3月9日には、イラク、北朝鮮、中国、ロシア、イラン、リビア、シリアの7カ国を対象に核攻撃を想定していることが報道された。これらの危険な内容を4月5日付の会報に掲載した。

◆「非核三原則の法制化」を求めて

02年4月、「非核三原則の法制化」を求める賛同書を会員に送付した。これは、国会決議でしかない「非核三原則」を、拘束力のある法律にしていく運動である。具体的には、国会が立法化するよう富山県議会に決議の陳情を行う際、賛

同者を増やすことを当会として取り組むということになった。当会の片山世話人代表と高野副代表がその呼びかけ人名を連ねている。

非核三原則法制化賛同者 (敬称略)

伊藤	文子	摂津	浩二
内田	尚三	高野	昇治
梅崎	伸	瀧	邦彦
太田	真治	瀧	邦康
岡宗	祐二郎	寺崎	元人
小熊	清史	中田	重俊
片山	喬	成瀬	達雄
加藤	美子	福井	米正
金井	英子	堀	比佐司
黒部	信也	宮城	宗悦
小泉	富美朝	宮腰	英和
小林	信	村田	巧
斉藤	隆義	矢野	博明
澤田	克巳	与島	明美
塩見	哲	和記	延子
渋谷	敏幸		

◆非核三原則見直し発言に抗議

02年5月下旬、安倍官房副長官や福田官房長官の「非核三原則の見直しはあり得る」という発言にたいし、抗議文を送付した。

◆有事法制に反対のアピール

02年6月12日、継続審議となった有事3法案に反対するアピールを発表。

◆浅井基文講演会

02年8月8日、明治学院大学教授の浅井基文氏を迎えて、市民公開講演会を開催した。テーマは「迫りくる核戦争の危機、日本のとるべき道は？」。浅井氏は、アメリカは9・11テロ以来、ネオコンの発言力が高まり、はっきりと戦略を変えた。有事立法はアメリカの要請のもとに画策され、朝鮮有事の際に日本が国をあげて米軍に協力できる体制づくりをめざしながら、来年のイラク攻撃に間に合わせようとしている、と述べた。この講演要旨は、とやま保険医新聞に掲載された。



◆イラク攻撃反対で、米・日・イラク政府に要請

03年2月25日、ブッシュ大統領が期限を区切ってイラク攻撃を事実上宣言したことから、アメリカと日本政府、そしてイラクに対して要請書を送った。米

ブッシュ大統領に対しては国連決議なしの攻撃はアメリカの真の国益ではないこと、小泉首相に対しては勇気をもって米政府に戦争回避の説得を行うこと、フセイン大統領には結果の明らかな抗戦ではなく国連査察に全面協力することを要請した。

◆ピースウォークin富山に参加、ポスター作成と募金の取り組み

03年3月30日、個人やNPOなど幅広い市民が結集した「ピース・トーク&ウォークin富山」が開催され、当会からは片山世話人代表以下9人が参加した。3月末、イラク攻撃反対の意思表示としてポスターを作成し、県内の医師・歯科医師・医学者約1500人に送付した。このとき呼びかけた「イラク戦争反対行動募金」に26名の方々から申し出があった。



た。

◆アメリカの「使える」小型核兵器開発に反対

03年4月22日、米ブッシュ政権が自ら禁止している広島型の3分の1以下の小型核兵器開発を再開する方針を固めたことにたいし、当会は抗議声明を送付した。02年1月の核戦略の見直しの柱である「先制攻撃」と「使える核兵器開発」を着実に実行する米ブッシュ政権は、世界にとって最大の脅威となっている。

私たち医療人はイラク攻撃に反対します



STOP! WAR 核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会 核兵器廃絶をめぐり富山県医師会主催の集会 核もイラクへの一方的な攻撃に反対です 院長

◆北朝鮮にも抗議声明

03年5月7日、米韓中の三国協議で核開発を事実上宣言した北朝鮮にたいし、挑戦的な瀬戸際外交をやめ、平和と友好による国際社会への復帰をめざすよう求める抗議声明を発表した。

(2) 県内の非核・平和団体との協力、共同の取り組み

- ◆ブックレット「いま非核三原則法制化の実現へ」の普及
- ◆原水爆禁止世界大会パンフの斡旋、

- 平和美術展の宣伝
- ◆冊子「私と日本国憲法」の斡旋普及
- ◆とやま朗読劇の会の公演に対し協賛。

(3) 組織の充実、発展をめざす

- ◆01年12月、反核医師のつどいと島世話人が参加した。

- ◆前回総会以降、会報を6回発行した。



01年 8月 6日付



01年11月 6日付



02年 4月 5日付

役 員

- | | | |
|---------|-------|------------------------|
| ■世話人代表 | 片山 喬 | (元富山医科薬科大学付属病院 院長) |
| ■世話人副代表 | 高野 昇治 | (富山市・高野整形外科リウマチ科医院 院長) |
| | 黒部 信也 | (富山市・富山協立病院 名誉院長) |
| ■世話人 | 井本 正樹 | (富山市・井本産婦人科医院 院長) |
| | 太田 真治 | (高岡市・おおたファミリー歯科 院長) |
| | 小熊 清史 | (魚津市・小熊歯科医院 院長) |
| | 金井 英子 | (砺波市・福野厚生病院) |
| | 瀧 邦彦 | (大沢野町・滝医院 院長) |
| | 矢野 博明 | (新湊市・矢野神経内科医院 院長) |
| ■顧問 | 与島 明美 | (富山市・富山協立病院) |
| | 佐々 学 | (元富山医科薬科大学 学長) |

会計報告および予算案

2001年度および2002年度会計報告

自：2001年7月 1日
至：2003年6月30日

<収入の部>

年会費	605,000
雑収入	76,587
前年度繰越金	564,658

合計	1,246,245
-----------	------------------

<支出の部>

会議費	38,400
事業費	692,465
事務費	49,005
協賛金	50,000
雑費	0
小計	829,870

翌年度繰越金	416,375
--------	---------

合計	1,246,245
-----------	------------------

2003年度および2004年度予算案

自：2003年7月 1日
至：2005年6月30日

<収入の部>

年会費	500,000
雑収入	50,000
前年度繰越金	416,375

合計	966,375
-----------	----------------

<支出の部>

会議費	80,000
事業費	350,000
事務費	50,000
協賛金	40,000
雑費	0
小計	520,000

翌年度繰越金	446,375
--------	---------

合計	966,375
-----------	----------------

会 則

- 第 1 条 本会は「核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会」と称し、事務所を富山市内におく。
- 第 2 条 本会は、人間の健康と生命を守る医師のヒューマニズムにもとづき、核兵器廃絶と核戦争防止のために、医師として可能な限り努力する。
- 第 3 条 本会は、核兵器廃絶と核戦争の防止を願う、医師・歯科医師、医学者によって構成する。
- 第 4 条 本会は、会の自主性を堅持し、他のいかなる団体にも拘束されない。
- 第 5 条 本会は、第 2 条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- 1 核兵器廃絶・核戦争防止のための世論を高める事業。
 - 2 核兵器完全禁止署名への協力。
 - 3 他都道府県と同趣旨の会との連携、「核戦争防止国際医師会議」(I P P N W)への協力。
 - 4 県内の被爆者及び被爆者団体との連携。
 - 5 講演会・映画会等必要と認められる事業。
- 第 6 条 本会の事業すすめるため、若干名の世話人をおく。世話人代表は世話人会の互選とする。また、顧問をおくことができる。
- 第 7 条 世話人及び顧問は、総会で選出する。
- 第 8 条 世話人及び顧問の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 第 9 条 総会は、少なくとも 2 年に 1 回は開催する。
- 第 10 条 本会は、年会費、寄付金によって運営される。年会費は 5 千円とする。
- 第 11 条 本会則の変更は、総会で行う。

1989年7月16日

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会 第 8 回総会記念講演

イラク戦争・国民保護法制とは

国民の平和意識を変えることが真の狙い

私と平和運動の関わりのルーツをたどれば、小学校時代に本屋で手に取った原爆の黒こげの写真にあると思います。以後中学、高校と憲法九条やイタイタイ病に関心が広がり、法律で正義を実現できるんじゃないかとこの道に決めました。

戦争の悲惨さを伝えない 日本のマスコミ

今回のイラク戦争で特に感じたことは日本のマスコミのひどさでした。世界では国際法から見てこれでよいのかという批判がありましたが、日本では赤旗と週



青島明生 (あおしま あけあ)
弁護士・市民オンブズ富山
代表

間金曜日くらい。特にNHKは戦況の垂れ流しに終始し、戦争の悲惨さが伝わって来ませんでした。

以前、日本で報道されなかったことで

「死のハイウェイ事件」というものがあります。湾岸戦争でクウェートから撤退しているイラク軍を米軍機が背後から攻

撃したのです。これも国際法に反する残虐な行為でした。

国際法を根拠とした運動は大いなる歴史の進歩

国連安保理や世界の反戦世論にもかかわらずアメリカは武力攻撃を行いました。時間が経つにつれイラク戦争の真実が明らかになってきました。大量破壊兵器はいまだ出て来ない上に、ウラン輸入をめぐる情報操作が明らかになり、米英では政権の責任問題にまで発展しています。

イラク戦争反対運動をどう評価するか。私は平和運動というものは勝ち負けでなく、賛同者をどれだけ増やしたかが問題で、今回の経験は多くの人々が国際法を根拠にして反対したということで、大いなる歴史の進歩だと思っています。あのベトナム戦争でさえ、今回反対した国も安保理も反対しなかったのです。

国連の役割についても日本のジャーナリズムでは、国連や安保理の無力化とアメリカの力の支配を肯定する論調が目立ちました。しかし、皮肉にも今回ほどアメリカが安保理の決議を追求したことは

ありません。ヨーロッパでは一国主義に陥ったアメリカの対抗軸としての国連の価値を高く評価する報道が行われています。

富山のイラク反対運動

イラク反対運動は、富山でも新しいスタイルで展開しました。若い人の多くが個人として参加し、インターネットの掲示板が連絡や議論の場となりました。政党も賛同人の一人として参加し、今までにない層への拡がりがありました。「ヒバクシャ」の上映では、連合や自民、共産など分け隔てなく声をかけ、やれることに自ら敷居を設けないことが特徴でした。

その一方で「こわい人と見られたくない」とか、職場との関係で過度に政治的な判断をするケースが多いことも、ある意味富山らしさかなと感じています。

国民「保護」じつは「統制」

憲法違反のイラク特措法が成立し、次は「国民保護法制」が来年春の成立めざして準備がすすめられています。これは一口に言えば、すでにある災害対策基本法の「災害」を「武力攻撃事態」に置き換え、国内を戦時体制とするものです。内閣総理大臣が判断すれば、地方自治体や医療など公共的な業種の民間人に命令でき、もし従わないものがあれば懲役などの罰則も設けてあります。これと似たようなことで、一九三三年から行われた防空訓練があります。その当時、日本を空爆する国など考えられなかったのですが、国民に恐怖の意識を作り、好戦的な世論づくりに有効でした。この「国民保護法制」も短期的には、米軍支援を可能にする「武力攻撃事態法」の国内整備が目的ですが、もっと大きなねらいは戦後の日本国民が

憲法第九条の下で培ってきた平和意識を後退させることにあるのです。

「国民保護法制」の経緯とスケジュール

- H14.10 全国都道府県知事会議で基本的な説明
- H15.1 地方公共団体や関連民間機関に輪郭説明と意見聴取
- H15.4 衆院事態対処特別委で「国民保護法制について」提出
- H15.6 「武力攻撃事態対処法」施行
- H15.6 国民保護法制整備本部会議…主な検討項目の整理
- H15.10 国民保護法制整備本部会議…法案要旨及び論点整理
- H15.12 国民保護法制整備本部会議…法案の作成
- H16.1 国民保護法制整備本部会議…法案の決定
- H16.3 法案の閣議決定、国会へ提出

* 国民保護法制整備本部会議…福田康夫官房長官を本部長とした主要閣僚で構成される

辺見庸が語る

私たちはどのような時代に生きているか

— 9・11テロ後2年の風景と抗暴の思想 —



「・・・米英の戦争発動者らの罪はじつに重い。だがしかし、翻って見れば、われわれもまたこの侵略戦争を制止しえなかったことにより『なにか』を裏切り、そのためにはいま、『なにか』に裏切られているのではないか。その大事な『なにか』について、私は本書で考えてみようとした。『なにか』の芯のところは決して目にさやかではない。思うに、それはおそらく人倫の根源のようなものだ。・・・」
著書「いま抗暴のときに」あとがきより

辺見 庸 (へんみ・よう)

作家、早大客員教授。

芥川賞受賞者。94年には、『もの食う人びと』を発表、90万部を超す大ベストセラーとなる。他の著書に、『新・私たちはどのような時代に生きているのか』（岩波書店）、『永遠の不服従のために』（毎日新聞社）など多数。最新刊に『いま、抗暴のときに』（毎日新聞社）がある。

NHK教育テレビ『E TV特集』やTBS『筑紫哲也ニュース23』などに連続出演し、メディア論、文明論を通じて時代への異議申し立てを続けている。

日 時 **9月11日 (木)**

午後6時半開演

会 場 **サンフォルテ・ホール**

参加費 一般千円 (学生500円)

主 催 平和をつくる富山県連絡会

会費納入のお願い

私たち医師・医学者の会の活動は、会費中心に運営しています。活動の基盤となる財政を確保するため、先生の入会ならびに2003年会費の納入をお願いします。

会の趣旨に賛同し、入会を了承される先生は、FAXまたは電話でその旨ご連絡ください。会費納入用郵便振替票をお送りします。

◇年会費 5,000円 (毎年7月が期首)

◇振込方法

「郵便振替票」をご利用下さい。

◇連絡先

核兵器廃絶をめざす

富山医師・医学者の会

富山市桜橋通り6-13

フコクビル11階 076(442)8000

編集後記

- 本号で世話人の投稿ページのカットを引用させていただいた「ルメイ・最後の空襲：米軍資料に見る富山大空襲」の163ページに、模擬原子爆弾パンプキンの着弾爆発した航空写真がある。
- これについて富山大空襲を語り継ぐ会代表幹事の田中悌夫氏が語っている。「7月20日、非常に暑い日だった…(中略)富岩運河の西岸に爆弾が落ちたという。現場を見に行くと、河縁りに直径10メートル程の穴が開き、爆風で川藻が飛び上がり電線に引っかかっていた。いわゆる『パンプキン』が日曹製鋼を狙って投下されたのだった。」(会誌・第5集より)
- パンプキンは長崎型原爆と同型で、ずんぐりと丸い形状からそう呼ばれ、投下時間は午前8時3分だった。(S・M)